



穴をあけて綴じてください



ふくいくは 馥郁と日に映える社前の紅梅と白梅

— 撮影・平野順治 —

お祭りは6月7日(土)・8日(日)

お祭りは今も昔も地域住民の心を一つに統合し、生きる活力を与える大切な年中行事です。

ことしは、昭和62年の鎮座九百三十年大祭から10年になるため、ぜひ本祭りをとの声もありましたが、景気回復の遅れもあって、残念ながら陰祭りとなりました。

神社の二之神輿は、氏子青年会の担ぎ手を中心に、8日午前8時30分宮出し、宮本、仲四、高畑、西二、西一、仲一、仲二、仲三、東三の順に渡御し、午後4時15分に宮入りの予定です。

少年少女が奉仕する伝統ある三匹獅子舞は、7日午後2時30分と5時30分からの2回、8日は午後1時、3時、5時30分からの3回、神楽殿で元気いっぱい上演されます。また神門前の棧敷では、崇敬会育成の六郷ばやしが演奏され、にぎやかな祭りのムードを盛り上げます。

なお崇敬会では両日、社務所の窓口には会員記帳所を設けます。ご参拝の節ぜひお立ち寄りください。平成9年度の年会費払い込み、入会申し込みの受け付けもいたします。

六郷神社崇敬会

平成8年度決算報告書

(1)収支計算書 (平成8年4月1日から平成9年3月31日まで)

収入の部		円
個人会費		1,827,000
法人会費		310,000
雑収入		198,254
前期繰越金		382,978
合 計		2,718,232
支出の部		
六郷神社協賛金		535,300
備品費		27,810
会報発行費(第14.15号)		565,470
事務費		102,044
通信費		224,620
会議費		134,233
郵便振替払込料		23,960
消耗品費		56,408
渉外費		273,100
催事費		384,125
雑費		13,728
予備費		0
次期繰越金		377,434
合 計		2,718,232

(2)資金残高内訳 (平成9年3月31日現在)

郵便振替貯金	85,175円
城南信用金庫定期預金	200,000
同普通預金	76,583
現金	15,676
合 計(次期繰越金)	377,434

監査報告書

監査の結果、上記平成8年度決算報告書は、正確であることを認めました。

平成9年5月10日

監事 代田 秀雄 (印)
監事 林 孝嘉 (印)

6月29日
第8回 定期総会にご出席ください

第8回定期総会を左記のとおり開催いたしますので、ぜひご出席ください。また、ぜひご案内申し上げます。なお総会終了後、会員の懇親会を行います。

記

- 一、日時 平成9年6月29日(日) 午後1時30分
- 二、場所 大田区東六郷3-10-18 六郷神社社務所
- 三、会議の目的

(1) 報告事項

平成8年度会務及び事業報告の件

(2) 審議事項

1. 平成8年度(平成8年4月1日から平成9年3月31日まで) 決算報告書承認の件
2. 平成9年度(平成9年4月1日から平成10年3月31日まで) 事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件

四、会員懇親会

本会に対するご意見や新しい行事のアイデアなどをお聞かせください。

平成8年度会務
および事業報告

平成9年3月31日現在、本会の会員数は、個人809名、法人86社。本年度は、常任理事会を8回、理事会を1回開催し、会報14・15号を発行しました。実施事業の主なものを列挙すれば次のとおりです。

- 平成8年4月1日 第69回ついでたち早朝まいり。講話「氏子青年会の活動」 田畑久雄
- 5月1日 第70回ついでたち早朝まいり。講話「神職の職階と装束」 祢宜・鈴木祐一
- 5月22日 日本武道館における神社本庁設立50周年記念式典に、会員多数出席。
- 5月25日 会報第14号発行
- 6月1日 第71回ついでたち早朝まいり。講話「私の健康法」 江部謙五
- 6月3日 六郷神社例大祭の式典に代表参列。
- 6月8・9日 祭礼。両日、会員参拝記帳所を設け、神門前の棧敷で崇敬会育成の六郷ばやし演奏。
- 6月22日 第7回定期総会を午後1時30分より六郷神社社務所で開催。終了後、会員懇親会。
- 7月1日 第72回ついでたち早朝まいり。講話「六郷生活60年」 東澤修二
- 8月1日 第73回ついでたち早朝まいり。講話

「和魂洋才」森 繁春

8月2、4日 六郷神社境内の氏子青年会主

催の納涼盆踊り大会協賛。

9月1日 第74回ついたち早朝まいり。講話

「塩と水」塩澤 章

10月1日 第75回ついたち早朝まいり。講話

「NC旋盤について」齋藤栄助

11月1日 第76回ついたち早朝まいり。講話

「軍隊時代の思い出」① 杉山 博

11月3日 創立記念日。本年は「しだれもみ

じ」を献木。式典後、大日本茶道協会のみ

なさんの奉仕で新庭園で添釜（野立）。

12月1日 第77回ついたち早朝まいり。講話

「軍隊時代の思い出」② 杉山 博

12月22日 会報第15号発行

平成9年1月1日 恒例により歳旦祭に清酒

2斗樽奉納。氏子青年会の協力を得て初詣

客に振る舞う。社務所に献花。

1月3日 会員初詣昇殿参拝。約400名参加。

神社からは神酒と「一陽来復」の特別神札

が授与され、崇敬会では御供物と甘酒進上。

1月7日 第20回六郷のどんと焼き協賛。

1月25日 氏子青年会の新年会に代表出席。

2月1日 第78回ついたち早朝まいり。講話

「飛梅と菅原道真」奥村 愛

3月1日 第79回ついたち早朝まいり。講話

「ひなまつりの歴史」井上富子

平成9年度事業計画（案）

(1) 六郷神社ついたち早朝まいり（定例）

昇殿参拝後、会員有志が交替で10分以内の短い講話を行います（元日を除く）。

7月より10月まで 午前6時集合

11月より6月まで 午前7時集合

(2) 新苑の宴

旧社務所跡に整備された庭苑の芝生がすっかり根付きました。佳き日を選んでいろいろと趣向をこらして、会員親睦のための楽しい宴を催したいと思います。詳しくは後日ご連絡申し上げます。

(3) 創立記念日の献木式と添釜

11月3日午前10時30分からの献木式に続き、大日本茶道協会のみなさんの奉仕により、新庭園で添釜（野立）を行います。

(4) 六郷ばやしの育成

由緒ある六郷ばやしの本格的な復活をめざし、昨年に引き続き、木村和治郎氏に出張教授をお願いします。目下、練習に参加しているのは青少年男女合わせて10名。

(5) 平成10年1月3日六郷神社初詣（恒例）

会員とその家族の昇殿参拝を、左記のとおり2回に分けて行います。

第1回昇殿参拝 午前10時30分

第2回昇殿参拝 午前11時30分

(6) 崇敬会会報第16・17号発行

六郷神社崇敬会
平成9年度収支予算案
(平成9年4月1日から平成10年3月31日まで)

収入の部		円
個人	会費	1,830,000
法人	会費	500,000
雑収入	雑収入	200,000
前期繰越	繰越金	377,434
合	計	2,907,434

支出の部		円
六郷神社協賛	金	700,000
10周年事業準備	金	300,000
備品	費	30,000
会報発行費(第16・17号)	費	600,000
事務信	費	120,000
通会	費	200,000
郵便振替	料	150,000
消耗品	費	25,000
渉外	費	60,000
渉外	費	250,000
催事	費	350,000
雑予備	費	20,000
合	計	2,907,434

茅の輪をくぐって 健康と長寿を祈ろう

祓は、神道の基本ともいえるべき信仰です。とくに6月30日の大祓は、

水無月の夏越の祓する人は

千とせの命延ぶといふなり

といわれ、疫気をはらう茅の輪くぐりの行事が各地に見られます。

六郷神社の拝殿前にも6月28日から茅の輪が設けられます。芋の輪のくぐり方は、まず左回りし、次いで右回り、もう一度左回り、すなわち横に8の字を描くように3回くぐって、神前に進み参拝します。

茅の輪をくぐって、身を清め、健康と長寿を祈りましょう。

随筆 ひなまつり

井上富子

ひなまつりのルーツは、古代中国の五節句の一つ上巳じつみ＝三月三日の厄除けの行事です。

上巳とは旧暦の3月のはじめの巳みの日で、この日、中国では疫病えきびょうなどの厄を祓はらうため、水辺で身を清めました。紙で切り抜いた人形ひとがたで体をなで、それに穢けがれを移して川へ流します。その際、神へ供物を捧げ、河原で酒宴を催しました。この不浄ふじょうをのぞく風習が、平安時代わが国に伝わってきたのです。

罪ととがれを肩代わりさせた人形は、流し捨ててこそ厄払いになるといふ信仰は、今なお「流しびな」の形で受け継がれてい



ます。

このような祓の具であった人形が、やがて貴族の間で美しい衣裳をつけた玩具のひな人形に発展し、調度品もできて、室町時代から「ひなまつり」が行われるようになりました。夫婦びなになったのもこの時代で、現在のような段飾りは、江戸時代の享保きやうほうごろからといわれます。

ひな段には桃の花を飾ります。桃は魔をはらう聖なる木で、白酒も元来は桃の花を麴こうでつくった濁り酒でした。また菱餅ひしもちも魔をはらう蓬よもぎの餅で、紅が活発さ、白が清廉さ、緑が素直さを表わし、そうした子に育ってほしいという親心の象徴といえます。

ひなまつりの飾り付けは、家中を明るくし、家族に笑顔を運びます。私の子供のころ、お節句が来ると母が作ってくれた五目ずし、それは六郷の郷土料理にもなっていたようで、おかしらつきの鯛とか蛤かきのすまし汁な

どと一緒に、ひな段の前で家族そろって食べた光景が懐かしく思い出されます。

「雛あられ両手にうけてこぼしけり」久保田万太郎のこんな句にも郷愁を覚える昨今です。

さて、ひなまつりも終わってひなをしまう日は、飾り付けの日から数えて奇数の日を選んでものです。その日は、おそばをお供えした後、手の油がつかぬよう手袋をして、ひなの顔を一つ一つ丁寧に柔らかい紙で包んで箱に納め、また来年ね、と別れを惜しみました。

おひなさまを何時までも出して置くと、お嫁に行けないとかいいますが、それは物事をきちんと言付ける習慣を身につけるといふ、女の子に対する躰たてからきている言い伝えではないでしょうか。

世の中はあわただしく変化し、生活様式も合理的になっていきますが、みやびで心なごむひなまつりの伝統だけは大切にしていきたい、と思っています。

◆氏子青年会20周年記念式典

4月20日午後3時よりJR関内駅前のレストランナショナル・プラザ・ホテルで盛大に挙行され、祝賀ムードいっぱい。250余名参加。

◆新入会員紹介

西二・渡辺ふみ 井荻千代栄 久が原一丁目・宮田和子

◆訃報

石渡豊吉氏(崇敬会参与) 平成8年7月13日逝去。85歳。謹んで生前のご尽力に感謝し、ご冥福を祈ります。

◆平成9年度年会費納入のお願い

お手数でも同封の振替用紙で、年会費(平成9年4月1日から同年3月31日までの分)を、お納めください。社務所へお届けくださっても結構です。

発行 六郷神社崇敬会

〒144 大田区東六郷三十一十八

六郷神社社務所内

電話 〇三三三三三二二八八九

振替 〇〇一九〇六一二二五五三

編集 平野順治